

農業後継者教育に関する一考察

— 農業高校教師と生徒 —

鯉川学園

安藤義道

1. 研究の目的

本研究は第35回大会からの継続研究報告である。(前回は「親と子」というテーマで報告した。)

現代高校教育の問題のひとつに学校間の序列化があげられる。いわゆる“普職”格差であり、普商工農の序列化である。いずれにしても、最底辺に位置づけられているのが農業高校であり、農業課程である。実態は「肥料計算ができない生徒、温室の体積計算ができない生徒が最近目立ってきている」(『研究成果報告書—昭和50・51年度文部省高等学校教育課題研究指定校』愛知県立渥美農業高校)と農業高校側も認めるところである。

農業高校が抱えるもうひとつの課題は農業自営者が出ないという問題である。“高等学校における農業自営者の養成および確保のための農業教育の改善方策について”(中央産業教育審議会答申 昭39.4)に基づく自営者養成農業高等学校拡充整備実施要領にもあきらかなように、自営者確保は重要な教育的課題である。しかし、全国の大部分の農業高校がこの課題に苦慮しているというのが実態である。

本研究はこの課題への問題点に迫ってみようという試みである。

2. 調査の方法

調査の対象は前回同様、57年4月茨城県内高等学校入学者で、かつ6月1日時点で就農を志向した者(茨城県農業後継者育成基金調べ)。すなわち、農業自営予定者である。ただし、今日は、課題を農業教育にしようとしたので農業高校生に限定した。農業高校在学の

農業自営予定者(調査時点では2年生)と、彼らの教育に携わる全科目の教師、および助手である。内訳は生徒444名、教師411名(農業関係科目224名、非農業関係科目187名)である。

3. 調査の結果

結果を $|P_1 - P_2| > 2\sqrt{\frac{1-P}{n}}$ (ただし、 $\frac{1}{n_1} + \frac{1}{n_2} = \frac{1}{n}$ $P = \frac{n_1 + n_2}{n_1 + n_2}$) を用いて検証したところ次のことがあきらかになった。例えば、農業観(農業に対する考え方)では、
①教師の方が自営予定生徒(以下生徒と略)よりも農業賛美的色彩が強い。
②教師の方が生徒より農業を使命産業としてとらえている。
③教師の方が生徒より農本主義的色彩が濃厚である。
④教師の方が生徒より農業を行政依存的姿勢でとらえている。
⑤農業はもうかるという考え方は教師より生徒の方に強い。

また、若者観(今の若者に欠けているといわれるものに対する見方・考え方)では、
①生徒は夢の不足以外は肯定か否定をしまわった。

②教師は自分中心、根性不足、礼儀作法不足に半数以上が肯定した。また、反対に愛国心、郷土愛の不足、夢の不足、勉強不足では否定が肯定をしまわった。

その他、進路予定観(卒業後の進路に対する考え方)では、

①生徒の方は教師より卒業即就農への志向が強い。

②教師には研修してから就職希望が強い。

		就 業 志 向 者										教 師									
		そう思う		何も思わない		そうは思わない		その他		合 計		そう思う		何も思わない		そうは思わない		その他		合 計	
		実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
農業に対する考え方	農業は物を生産する喜び、創造する喜びがある	330	74.3	61	13.8	37	8.3	16	3.6	444	100.0	386	93.9	3	0.7	9	2.2	13	3.2	411	100.0
	農業は緑・自然美を味わう喜びがある	295	66.4	93	21.0	49	11.0	7	1.6	444	100.0	357	86.6	16	3.9	25	6.1	13	3.2	411	100.0
	農業は衣食住の源で、食料提供の義務がある	226	50.9	92	20.7	114	25.7	12	2.7	444	100.0	278	67.6	25	6.1	94	22.9	14	3.4	411	100.0
	農業は商工業と同様やりがいのある職業	162	36.5	131	29.5	144	32.4	7	1.6	444	100.0	289	70.3	24	5.6	82	20.0	16	3.9	411	100.0
	良質のものを生産すれば所得上、働いただけむくいられる	193	43.5	96	21.6	146	32.9	9	2.0	444	100.0	185	45.2	28	6.6	164	44.8	13	3.2	411	100.0
	農業も働けばいくらでももうかる	126	28.4	96	21.6	212	47.7	10	2.3	444	100.0	63	20.2	30	7.5	284	69.1	14	3.4	411	100.0
	農業は国の本であり、国家の基本産業	254	57.2	109	24.6	72	16.2	9	2.0	444	100.0	317	77.1	21	4.9	61	14.5	13	3.2	411	100.0
	農業も農政さえしっかりしていればやりがいある職業	235	52.9	132	29.7	70	15.8	7	1.6	444	100.0	255	66.4	15	3.6	30	7.3	11	2.7	411	100.0
若者に対する見方・考え方	今の若者には、愛国心、郷土愛の心が無い	190	42.8	112	25.2	122	27.5	20	4.5	444	100.0	132	32.1	47	11.4	205	50.9	23	5.6	411	100.0
	自分中心で責任感がない	223	50.2	103	23.2	110	24.8	8	1.8	444	100.0	228	55.5	28	6.6	139	33.6	16	3.9	411	100.0
	人生の目標・目的がなく夢がない	118	26.6	111	25.0	207	46.6	8	1.8	444	100.0	175	42.6	34	8.3	184	44.7	16	3.9	411	100.0
	体力・気力・根性に欠ける	185	41.6	114	25.7	141	31.7	7	1.6	444	100.0	233	56.7	27	6.6	124	30.4	17	4.1	411	100.0
	勉強不足で理論や創造力がない	152	34.2	136	30.6	148	33.3	8	1.8	444	100.0	175	42.6	35	8.3	181	44.1	17	4.1	411	100.0
	礼儀作法に欠け態度を知らない	207	46.6	102	23.0	128	28.8	7	1.6	444	100.0	238	57.2	27	6.5	137	32.4	16	3.9	411	100.0

74%に達する)。

また、農業後継者観(農業後継予定の生徒に対する見方)では、

- ①後継者なんだから農業に従事すべきだ、という見方をとる教師は非常に少ない(わずか9.5%)。
- ②多いのは後継者として農業に従事してほしい、という期待的見方(66.2%)である。生徒の受けとり方も同じであるが、大きな開きがみられる(39.9%)。

3 まとめ

農業教育、なかんずく農業後継者教育をめぐる問題点として次のような点があきらかとなった。

- ①教師は農業という職業を経済的視点より経済外的視点からとらえている。
- ②生徒に郷土愛、夢、希望の不足を見出している教師は意外と少ない。
- ③農業高校を最終の農業後継者教育機関とみている教師は非常に少ない。
- ④農業後継者養成は農業高校にとつての大きな課題とされるが、教師の方はそのための生徒への見方として、使命感に訴える形であり期待するという形をとっている。換言す

		就 業 志 向 者		教 師	
		実 数	割合	実 数	割合
卒業後、農業に従事しているか	すぐに就職した方がよい	57	12.8	31	7.5
	研修してから就職した方がよい	47	10.6	304	74.0
	進学した後就職した方がよい	68	15.3	36	8.8
	他産業に就職してから就職した方がよい	139	31.3	32	7.8
	その他(就職しない方がよい)	131	29.5	3	0.7
	その 他 (N/A)	2	0.5	5	1.2
計		444	100.0	411	100.0

		就 業 志 向 者		教 師	
		実 数	割合	実 数	割合
農業後継予定生徒の見方	農業後継者なんだから創造的積極的に農業に従事すべき	59	13.3	39	9.5
	農業後継者として、創造的積極的に農業に従事してほしい	177	39.9	272	66.2
	農業後継者の立場を認識しよくやっていると思う	85	19.1	46	11.2
	進んでばかりいて農業後継者の立場を認識していない	118	26.6	47	11.4
	その 他 (N/A)	5	1.1	7	1.7
計		444	100.0	411	100.0

れば、消極的にこの課題をとらえている。